

市場のあり方戦略本部（本部長インタビュー）議事概要

＜東京魚市場卸協同組合＞

平成29年5月15日（月）
開会12時52分、閉会14時03分
築地市場市場長室

【出席者】

○東京魚市場卸協同組合

早山豊理事長ほか

○東京都

中西副知事（本部長）、中央卸売市場長、中央卸売市場次長ほか

【議事概要】

（東京都）

- ・築地市場の事業者の皆様には、様々な面で多大な御心痛をおかけしている。
- ・この4月に市場のあり方戦略本部を設置し、様々な検討を進めているところ。検討に当たり、何よりも築地市場で働いている皆様の御意見をしっかりと伺うことが大切であることから、こういう場を設けさせていただいた。
- ・忌憚のない御意見を伺い、内容については責任を持って知事に伝えていく。

（仲卸業者団体）

- ・仲卸の立ち位置はすべて市場次第でほかに選択肢はない。言い方を変えれば、市場と心中せざるを得ない立場にある。我々が一番求めているのは、市場流通が確保されることのできるのかということ。
- ・11月7日の移転に向け、あくまでも土壌対策をきっちりやるということを前提に、ほとんどの組合員が準備をしてきた。移転をしても、豊洲市場までのアクセス、駐車場、買出人の買い回りなど様々な問題があり、そういう不安はたくさんある中で、我々の努力で克服することができるのではないかと前向きな気持ちで取り組んできた。
- ・しかし、移転が延期されその後の専門家会議の発表等々で、盛り土がされてないとか、新しいモニタリング数字が出てきたということにより、そこから発生した風評問題は我々の努力ではとても克服できる問題ではない。よって新しい執行部になってからは、現状の豊洲には今は移転できないというのが我々全体の今の気持ちである。
- ・その後、安全・安心が様々な論議される中で、法的な問題、地表部分の問題、地下問題といろいろと出てきた。専門家会議では地表部分は安全という形で報道されたし、実際にそういうような結論が出ているが、我々からすれば安全・安心というのをどこで整理すればいいのかと。
- ・皆さん、安全に関しては頭の中で整理できるが、安心というのは体で受けとめるもの。豊洲は安全なんだという方に、豊洲の魚を食べていただけるんですかというところまで突き詰めると、そこに非常に大きな不安がある。

- ・築地市場で最近、1か所で多少のベンゼンが出たとか、老朽化や汚染問題と言われても、実際に生産者からの入荷や買出人の足が遠のいたとか、そういうことは一切ない。築地市場というのはそういった意味での心配は何もない。
- ・豊洲市場においては、我々は全くその辺のところは予知できない。例えば、何らかの形で安全宣言、もしくは不安の払拭がされたということでスタートしても、お客さんが魚の入荷ルートに対して少しずつ拒否反応を示してきたというようなことが起きた場合、だんだん市場が先細りになっていくということも十分考えられる。
- ・我々は理論的にどうこうではなく、魚を扱ってきた人間の本能で、何か違うことが起きそうな気がする。安全・安心を打ち出しても、そんな簡単に末端まで完全に染み通り、良い市場として運営を続けていけるのか。
- ・我々も築地市場が完璧なものだとは思っていない。いろいろな意味で問題があるのはわかった上で、最終的には、市場の流通がきちんと確保されて、生産者が安心して出荷できて、買出人が安心して買いに来ることができ、消費者が安心して食べられる、そういう市場であってほしい。よって、現在のところ、豊洲移転という我々の立ち位置はない。
- ・今後どうするのかということについて、私たち仲卸の事業主、組合員の思いを一度きっちりまとめて、知事の御判断の一材料にさせていただければありがたい。意見のまとめ方をどうするかについては執行部を中心に方策を練っている最中である。

(仲卸業者団体)

- ・仮に11月7日に移転していたとしたら、おそらく地下空間が出てきた時点で我々の日常は終わったと思う。
- ・小池都知事と自民党との勝ち負けの話になってきているようだが我々には関係ない。あくまで、今の築地で商売させていただいているこの部分の日常を守りたいというところをしっかりとやっていただきたい。
- ・小島先生あるいは総務局がやっていること、市場当局がやっていること、お互いが何をやっているのか分からないというのは、我々働いている人間からしてみると関係ない。東京都として一本化していただいた上で、我々全組合員に再度意向調査をして、都知事の総合的な判断に使っていただきたい。意向調査についてはぜひ東京都が主導権を持ちやっていただきたい。

(仲卸業者団体)

- ・11月7日の延期について、土壌汚染だけの問題だったのかというところ。早期の豊洲開場ということ述べられる方が多いが、もし豊洲に行くようであれば、今一度いろいろな形で検証していただきたい。
- ・小島さんから築地再整備案が出ているが、頓挫した20年位前とは違う形でいろいろな知恵が組み込まれれば、できる可能性はあるかもしれない。
- ・執行部も若返ったが、それ以上に若い方が市場を担っていくことになるので、そういう人たちの判断も組合としてしっかりと受けとめていかなければならない。
- ・今、市場を取り巻く環境は非常に厳しい。再整備、移転にモチベーションを上げていくには何らかの行政の力が必要だと思う。
- ・市場法の改正は、非常に大きな問題である。第三者販売の自由化など、いろいろな規

制緩和も含め、市場の経由率を上げていくには、私どもも卸含めていろいろな形でやっていかなくてはならない部分もあるが、やはり行政の力がどうしても必要である。

- ・ 全国の市場を見ると、京都、大阪、名古屋などの経由率が高いところは行政の力の入れ方がかなり違う。やはり、行政がかなりバックアップしているので、東京都も参考にしてもらいたい。我々も情報開示していくので、一緒に東京都の市場経由率が上がるようにやっていきたい。

(仲卸業者団体)

- ・ 豊洲を活用するに当たり、11月7日までにできなかったことも、ぜひとも検討課題に挙げていただき、より良い市場づくりをしていただきたい。
- ・ 市場内の店舗に関して、自分たちの責任において冷蔵庫内の温度管理をするのは当然だが、今は流通が変わってきており、店舗だけの販売とはまた違い、スーパーなどが相手では店の中で捌き切れない。荷捌きスペース等を使い出荷体制を整えなければならないのが現実である。
- ・ 先般、都と量販店のヒアリングにおいて、築地では心配だという意見が現実で、中には、商売の見直しをせざるを得なく、商売自体が小さくなっているというのが実感としてある。
- ・ 数年前に宅配便の温度管理の問題があったが、東京都も一つの市場ということで、コンプライアンス、またHACCP（ハサップ）等の実態における低温管理をしていかなければならないということも、昔とは違う現実的な問題が多々出てきていると思う。解決に向けての足がかりをぜひとも立ち止まっている間にも検討していただきたい。
- ・ 現在は現状365日体制で動いている。移転する際は準備期間を十分に設けていただき、移転日以降に築地を一切使えなくするのではなく、徐々に商売を移転できるようなことを検討していただきたい。
- ・ 立ち止まった中で、過去を見て、また先を見て、新しい検討をしていきたい。

(仲卸業者団体)

- ・ 東卸組合は、鮮魚関係や加工関係など、いろいろな業種が集まっており、取引上の問題で市場の施設に対する考え方もいろいろと違っている。ただ、今共通しているのは、きちんとした対応策を講じてもらわないと、豊洲に行くにしても行けないということにははっきりしている。
- ・ 11月7日はかなり乱暴な移転だった。4日間で移動してくださいと、4日目には築地市場全ての電源を切りますと、こっちに一切の残菜を残すなど。これは相当乱暴な発想だった。何とかしてもらいたいと要求しても、当時はなしのつぶてに近かった。
- ・ 福岡の青果市場の移転では、移転後1か月間は旧市場を使えるよう余裕を持たせていた。そういう前例があるにもかかわらず、築地では移転終了後にはすべて使用できなくなるというのは、これだけ大きな市場を移転させるのにあまりにも乱暴だ。
- ・ 我々、今共通していることは決して急いでいないということ。今、急いで何かをすぐ移転しなくてはならないとか、そういうことではない。しっかりと対応策を考えた上での方向性だと、我々は考えている。

(東京都)

- ・ 仲卸の思いを判断材料にしてほしいと言われたが、何らかの考えをまとめて、東京都

に御提出いただけるのか。

(仲卸業者団体)

- ・いや、できれば東京都のほうから意向調査をしていただければ一番ありがたいが、難しいようであれば、我々で自主的にやらざるを得ない。
- ・我々はこの市場エリアの中で、大家と店子の関係、許認可の中で、生きていくしか道がない。決して移転とか再整備という二極の相談をするというのではないということも含め、その思いを伝えたい。

(東京都)

- ・市場流通の中で生活をされているということですね。

(仲卸業者団体)

- ・そうですね。もうそれだけです。
- ・その先は、本当に我々各事業所、各事業主の努力である。品物が入ってくるということと、買出人が安心して買いに来られるということ、この二つがなければ、我々の努力もできない。
- ・報道の中で、我々が宙ぶらりだとか、生殺しだとか、困っているとよく言うが、我々は全然、今困っていない。日常性が保たれているということは困っていないということ。そのような報道に対して、その辺をはっきり言いたい。

(東京都)

- ・私どもが小売・流通業界とヒアリングをした中で、365日体制の話が出たが、実態として要望のある業種については、例えば日曜日でも販売できるような体制をとっているのか。

(仲卸業者団体)

- ・加工品については競り物品ではないので、定価販売のものも製品として仕入れをしている。大手スーパーも当然365日、物が動いているし、私の会社だけで言わせていただくと、実態として半分近くは直接センターに入っているものがある。それは、築地の中で低温管理されていないものに少し不安を感じるから、できるものは直接センターにつけてほしいという要望があるため。また、築地は地方からの集荷能力が非常に強いため、地方のもので直接センターにつけられないものは市場を経由するものがある。例えば、低温競り場にぎりぎりまで商品を置いておき、数十分でピッキングをして、低温のトラックで相手のセンターに届けるということもある。

(東京都)

- ・現地との関係で築地を経由して出すこともあるし、産地から直接持ってくるような形をとることもあるし、川下が困らないような対応はされているということか。

(仲卸業者団体)

- ・そのとおり。時間との戦いというところがある。市場が昔と変わり、競りによる価格形成機能と、物が流れる物流機能の二つが非常に分かれており、商談も違う形になってきている。やはり、価格形成機能だけということではなく、物流を伴わないほうがおかしいことである。きっちり温度管理できるのであれば、新しい市場を使い取引を大きくしていきたい。なおかつ、現状の市場に不安のある小売店には、むしろ安心してきてくださいと言える大きなメリットが出てくると思っている。

(仲卸業者団体)

- ・先ほども言ったとおり、東卸組合は業種によって考え方は変わってくる。
- ・市場の原点は、常に開けていなければならないところだが、労働環境を考えれば休みを設定せざるを得ない。しかし需要があれば対応している。例えば3連休の中日に従業員が出勤して対応しているところがたくさんある。
- ・やはり、鮮魚類や加工品などの商品を、いかにして良い状態で川下まで配送するのか。我々は川下の要求に対して、分荷も含めて常に対応を考えている。市場の一つの考え方としては、そういう対応がしやすい市場であってほしい。そういった意味で、築地は、老朽化の問題はあるが、比較的鮮魚類に関しては対応しやすい。狭いかもしれないが配送しやすく使い勝手がいい。
- ・ただ、施設設備的な問題は確かにあるので、築地で継続、改修という方向が出るのであれば、その部分はきちんとそれをなし得るしっかりした案と計画を作っていたかないと、我々としても首を縦に振るわけにはいかない。
- ・また、これから市場を担っていく次世代がどういう気持ちでいるか、どういう覚悟をしているかということが大きなポイントになってくるので、そこに依拠していかないと、今後の問題について判断するのは難しい。

(東京都)

- ・これまで東京都は、豊洲市場をコールドチェーンや低温管理、場内の物流など機能を向上させるという意味合いで、皆様方とも話をしながら作り上げてきた。豊洲でできること、築地じゃないとできないこと、いろいろメリット、デメリットあると思うがざっくりばらんに言ってどうなのか。

(仲卸業者団体)

- ・我々は築地しか知らないが、例えば、連休対策では、それぞれの配送車を拠点や店のすぐ傍につけることができる。それが良いか悪いかは別にして非常にスピードアップして対応できている。豊洲でもできないこともないけれど、店の横には車は絶対つけられないだろう。どこか荷捌きスペースを使うほかない。
- ・実際に物を動かすときのイメージが築地の長い間の歴史の中で身につけているため、それと違ったものを想像することが非常に難しい。豊洲だからできるという部分は絶対あるはずだが、イメージが湧かず、豊洲だとやりにくいんじゃないかという部分のほうが比較的頭の中に浮かんできやすい。

(仲卸業者団体)

- ・豊洲に対する習熟訓練をやったら、これはまずいのではないかといろいろな出ているのは確か。出入り口が少な過ぎるとか、シャワー室がないとかいろいろな部分で、ますます使い勝手が悪くなったのは事実である。女性社員が増えてきている中で、保育所や女性用のシャワー室などを設置してほしかったが、「豊洲に行くなら我々の商売に対し大事なものを」と言っていたにもかかわらず全部ダメダメって。豊洲には行けば行ったで悪いことしか見えない。

(仲卸業者団体)

- ・移転が延びることによって出てくる費用負担等々に関して、我々もそれを考えると非常に胸が痛い。しかし、その費用負担に抑え込まれて、これから何十年とやっていか

なきゃいけない市場を即断するのはどうなのかと。

- ・自分たちの思いや気持ちを都知事に何も伝えないまま結論が出てしまうことには納得できないという方が結構多い。みんな一生懸命考えているから、自分たちの思いをお示しできればと考えている。

(東京都)

- ・豊洲の9回目のモニタリング調査で地下水の汚染が判明し、そういった意味では、これまでの約束が果たされていないというのが現状である。そこからスタートした場合、安心とと思っていただけるためには、我々は何をすればいいのか。

(仲卸業者団体)

- ・まず、地下ピットの問題について、盛り土がされてないことを知りながらそれを通そうとした、要するに隠蔽体質というか、そういうものが非常に不安や不信を煽ったところだと思う。
- ・誰がやったのかというのも、うやむやな結論の出ないものになっている。やはりその答えをきっちり出して、今後どう解決するんだということを明確にした上で、当然知事が豊洲の安全・安心宣言をする。
- ・もう一つは、消費者がどういう考えを持つのかというのが、一番根っこだと思う。例えば、「これは豊洲から仕入れておりません。安心してお召し上がりください」というネガティブキャンペーンが始まってしまったりしたら大変な問題である。東京都でも、安心してお買い求めできる市場であるということをはっきりと示し、なおかつ、スーパーマーケット協会や魚商、小売店など消費者からの意見を聞き、これなら豊洲に行っても大丈夫だという形で進めていただきたい。

(仲卸業者団体)

- ・ヒアリングについて各業界とやっていると思うが、いわゆる消費者団体との予定はないのか。我々にしてみれば、食べてくれる方々、消費者が一番担保になる人たちで、それを見て生産者も出荷を考える。我々の努力でできることと、どうしてもできないことがある。

(仲卸業者団体)

- ・石原都知事、猪瀬都知事、舛添都知事の時代から、豊洲のことに対して言うことは土壌の問題で、無害化するからと。あれだけ反対論者がいる中で、当初予定していた土壌汚染対策費を大きく膨らませてもあのような形で出てしまった。地下は問題があるが地上は安全だと、極端な話、小池都知事は、未来永劫にわたって、その部分の安全と安心を担保すると言ってくれるのか。安全と安心の担保だけは絶対なので、消費者が納得するように動いていただきたい。

(仲卸業者団体)

- ・基本的に仲卸は、築地で良いものができればベストと誰しもが思っているはず。開場して八十数年、築地市場を中心としたコミュニティや交通網等のインフラ整備ができ上がっている。豊洲で営業して、そういうものがしっかり回せるのかというのが大きな問題だと思う。豊洲に決まったとしても、豊洲の使い勝手も含め、いろいろな形で考えていただきたい。

(仲卸業者団体)

- ・ 土壌汚染の問題ばかりクローズアップされるといろいろな市場に弊害が出てくる。関心事がそこに集中すると、一つひとつ乗り越えていくべき作業なのに、築地の営業にも支障を来すような流れになる可能性があり、我々もその辺を危惧していた。
- ・ オリンピック・パラリンピックなどいろいろな課題がある中で市場移転問題も関わってくると思うが、市場というものは、何十年というスパンで考えていく課題なので、やはりしっかりと腰を据えて対応してもらいたい。
- ・ 専門家会議の着地点がわからない。築地も今後ボーリング調査をしなくてはならないと聞いている。そういう時間軸を考えると、結論を出すのが遅くなっていく。一方で、結論を早く出せという動きもあり、我々としても非常に判断しにくい状況にあるが、我々の仲卸の立場としては、今急いで決めてもらいたくない、しっかりと取り組んでもらいたい。

(東京都)

- ・ 卸売市場法の規制緩和が、全国的に大きなテーマになっている。改正の内容によっては皆さんの事業活動に影響が出るところもあるが、そういった点と、これからの市場をどうしていくのがいいとお考えか。

(仲卸業者団体)

- ・ うちの組合では、専門チームをつくって勉強もし、また、有識者を招いて講演会をと考えている。勉強もしながら、いろいろな形で発信できればと考えている。

(仲卸業者団体)

- ・ 中央市場の根幹にも関わってくる一番大事なところなので、ぜひいろいろと教えていただいて、一緒になってやっていきたいと思うので、よろしく願いしたい。

(仲卸業者団体)

- ・ 自然環境がどんどん変わっており、ブランド化されていた魚が獲れる場所も変わってきている。そうすると、日本中どこの海で魚が獲れても受け入れることができる市場があり、ちゃんと評価できる我々仲卸がいて、いい意味で消費者に流れていかないと水産業は駄目になってしまう。
- ・ HACCP（ハサップ）の法制化にも、我々は衛生委員会などを中心にして対応策を考えている。これからの食品流通、国際認証も含めて、意識改革をきっちり組合としてやっていかなきゃいけない。そういうことをトータルして、移転問題も含めて考えていかなければならない。

(仲卸業者団体)

- ・ 今後、我々の希望として、知事ともお話し合いをしたいし、このようなインタビューも1回で終わるのもどうなのかと感じる。

(東京都)

- ・ 知事と直接話していただく機会を作れるかは、現段階では何も言えないが、今日お話があったことについては、知事にしっかり伝える。

(仲卸業者団体)

- ・ 先ほど言った説明会の件だが、我々としては東京都による説明会の開催を要請文としてお出ししたい。

(仲卸業者団体)

- ・小島さんの築地再整備案について、東卸組合が説明するのは難しい。東京都と一緒にやっていただきたい。

(東京都)

- ・小島さんの案そのものがまだ試案である。今度市場問題プロジェクトチームが開かれるが、そこでどういう扱いになるかによって変わってくる。

(仲卸業者団体)

- ・あの案を組合員によっては東京都の正式な案の一つという捉え方をしている。

(仲卸業者団体)

- ・東京都の公式案ではないといっても、マスコミの報道を見ると、よくわからないけれどそういう案があるんだと思う人がいるのも事実。

(東京都)

- ・また、相談させていただきたい。

(東京都)

- ・本日はお忙しいところどうもありがとうございました。

(以上)